



タヌキやキツネは本当に化けるの

化けられない

古くからキツネは、農民にとっては、田や畑の守り神である「稲荷神のお使い」とされてきました。畑をあらすネズミやノウサギを、とってくれたからです。やがて、中国から、キツネが人間に化ける話が伝えられて広がり、あやしい力をもつと信じられるようになりました。また、人間をだます、悪がしこい動物というイメージも、広がっていきました。しかし、キツネは、化けることはできません。

説明できないできごとは、キツネのせい

昔は今ほど、自然のさまざまな現象がなぜ起こるのか、ということがわかってはいませんでした。そのため、今では、科学的にいろいろな説明がされている、火の玉が飛ぶ現象などのように、あやしげな説明のつかないことがらを、キツネのせいにしたのです。

たとえば、「キツネ火」は、夜、現れる正体不明の明かりをいいます。「キツネのちょうちん行列」「キツネのよめ入り」などとよばれています。

身近な野生動物だった

キツネもタヌキも、昔はとても身近な野生動物でした。そこで、身近に出会った説明のつかないできごとを、キツネやタヌキのせいにしたようです。

キツネが人に化けたり、木の葉をお金に変えたり、キツネに道を迷わされたりなど、いろいろな話が、日本各地に残されています。タヌキにもキツネと同じように、人を化かす話があります。（監修・今泉 忠明）

